

鯖江市内のイベントのあり方に関する提言書



市 民 協 働 推 進 会 議

平成 27 年 2 月 23 日

1 はじめに

市民協働推進会議の委員 10 名は、環境、男女共同参画、福祉、まちづくり等に関わる市民活動団体に所属し、それぞれ忙しい毎日を送っています。

休日ともなりますと、時に複数の団体・知人等から活動に誘われる機会も頻繁にあります。また自らも主催事業の参加者集めに苦勞してきた経験から、何とか団体同士が連携をし、効率的かつ効果的なイベント運営ができないかと日々考えていました。

そうした問題意識から、一昨年来、市民協働推進会議の検討課題として、市内に行われる各種イベントのあり方を取り上げ、話し合いを行ってきました。

9月3日には、その集大成として市民フォーラム「主催者も参加者も、そして市民がハッピーに！『三方良し』のイベントづくり」を開催し、48名の参加者とともにワークショップ形式で話し合いを行ったところです。

今回、これらの検討結果を踏まえ、市民協働推進会議の2年間の活動報告も兼ね、「鯖江市内のイベントのあり方に関する提言書」をまとめました。



2 基本的な考え方

イベントのあり方について考えるにあたり、最も中心となるのが、参加者集め＝人集め、そして、そのための企画づくりではないかと思います。

実際に市民の皆さんの中にも

「休日にイベントを開いたが、別の大きなイベントと重なって人が集まらなかった」

「動員で集まってくる人が多く、いつもおなじような顔ぶれでのイベントになっている」

「毎年、実行委員会でイベントを開いているが、マンネリ傾向にある」

ということを経験したり、考えたりした方は多いのではないのでしょうか。

いうまでもなく参加者集め＝人集めは、イベントの成否を決定する重要な要素です。

しかし、それ自体が目的になるものではありません。イベントを開催することを通じて、市民の皆さんに広く市や団体の取り組み内容等を知っていただきたいというのが、一般的な集客型イベントの目的であると思われます。その意味から考えると、一度、原点に返り、

① 「誰のため、何のためのイベントなのか」を明確にする。

という点を考え直す必要があります。

ターゲットを絞らず、「一般市民」「家族連れ」などという包括的なくくりでイベント内容を考えてはいないのでしょうか。

また、市民からの多くの要望をあれこれ取り入れるあまり、これは子どもさん向け、これはお母さん向け等、幕の内弁当のようにお決まりのメニューを並べるのは、事業効果を散漫にする一因ともなっています。

そして、有名人を呼んでの講演会、活動紹介パネル展、クイズラリー、〇〇鍋の無料配布、体験コーナー、ティッシュ等啓発グッズの配布、福引・・・すべてのイベントで同じような企画が行われるという結果になってしまっています。

さらに当然のことながら、これは集客方法にも関わることです。

② 「動員型」から「自主参加型」への転換

が必要と思われます。

実際の現場では、市や実行委員会といった主催団体、関係する外郭団体・協力団体を集めイベントを実施している場合が多いようです。それは一概に否定されるべきやり方とは言えないでしょうが、結果、すでによく理解されている方ばかりが集まってくる傾向にあり、なかなか外に広がっていかないのが実情です（例えば、環境イベントには、もともと環境に意識の高い人が集まってしまう。スポーツ啓発イベントには、もともとスポーツ好きの人が集まってしまう、等々）。

企画に参画・協力している市民・市民団体としても、単に動員されているだけの体制から抜け出す必要があるのではないのでしょうか。

しかし、一口に「動員」をやめて「自主参加」に切り替えると言っても、実際は簡単ではありません。興味のない人、関係がない人を集めるくらい難しいこともないからです。

そのために考えられる手法として、

③ 他課、他部署との連携により効率的なイベントを

というものがあります。

その好例として、「さばえ食と健康・福祉フェア」が挙げられます。

このイベントは、もともと健康課や福祉課が別々に実施していた事業を数年前から一つのイベントに融合して実施しているもので、本提言書で扱うテーマのヒントになると思われます。

当初は健康課のみで昭和 63 年にスタート。平成 16 年からは福祉大会も趣旨が同じということで融合し、平成 22 年からは食も健康づくりには不可欠ということで、食育フェアも融合して嚮陽会館で実施しています。現在、健康課や福祉 3 課、農林政策課、教育委員会、日赤奉仕団や社会福祉協議会等の 10 の関係機関がコーナーを受け持ちながら協働で実施しています。



開催前に年 2、3 回会合を持ち、所管課は毎年持ち回り。参加人数は、毎年 2,000 人前後。予算は、200～300 万円。準備段階では、市役所の関係部署と社会福祉協議会で会議・準備を行っています。

融合することのメリットとしては、担当課のひとつである健康課職員の方から「ご家族での来場者が増えたので、多様な世代への健康に関する PR が進んでいる」とのコメントをいただいています。

市民協働推進会議として、以上の 3 つの観点をもとに、

1) 市の主要なイベント所管課（担当者）からのヒアリング（5 月 15 日）

さらに先述の、

2) 「主催者も参加者も、そして市民がハッピーに！ 『三方良し』のイベントづくり」（9 月 3 日）

を開催しました。その結果、実際にイベント運営に携わっておられる方々から多くの意見をいただくことができ、それらを以下 3 つの提言・具体案としてまとめました。

3 提言・具体案

1) イベントの統合・同時開催の推進

上記、「さばえ食と健康・福祉フェア」の例のように、市の担当課が連携し合うことで、効率的かつ効果的な事業運営が図れる場合があります。

今回、「主催者も参加者も、そして市民がハッピーに！ 『三方良し』のイベントづくり」の中で下記 3 つのイベントについて、事業担当課・関係諸団体の協力を得て、モデル的に検討を行いました。

- ①「女と男と輝くさばえフェスタ」とその新たな組み合わせ
- ②「ボランティアまつり」等福祉イベントとその新たな組み合わせ
- ③「交通安全フェア」とその新たな組み合わせ

当日は、これまで当該イベントに関わったことのないようなメンバーを交え、ワークショップ(ワールド・カフェ形式)で意見交換を行いました。その結果、以下のような意見が多く聞かれました。

- ・50人弱の参加者があったが、いずれのイベントにおいても、自分の関係イベント以外にほとんど参加したことがなかった(お互いの活動内容をほとんど知らない)。
- ・その理由としては、一定の来場者が確保されてはいるものの、参加層がほぼ固定化されており、広がりを得るのが難しい。
- ・特にすべてのイベントにおいて、若者を巻き込む工夫がまったくない。
- ・その場合も、企画段階から参画してもらう必要がある。
- ・評価(反省会)時には、第三者を交える必要がある。

具体的なイベント統合案を示すには至りませんでしたでしたが、市民協働推進会議としては、今回のワークショップを通じ、多様な関係者が一堂に会し「もっとお互いを知るべき」という認識に達したことは大きな成果と考えています。

今後、フォロー企画などを通じ、少しでも連携が進むことを期待しています。



また今回、ワークショップの中で「サバ・フェス2014」の事例紹介がありました。

9月14日・15日の連休に、鯖江市内で下記のイベントが行われました。

- ・焼き鳥合衆国
- ・さばえクラフトマーケット
- ・さばえNPOまつり
- ・ご縁市
- ・誠市
- ・地域活性化プランコンテスト
- ・さばえ秋HANABI

これら多様な団体の多様なイベントを、鯖江観光協会が呼びかけ人となり、共同でPRするためのポスターづくり、共同PRが行われました。当日は好天にも恵まれ、市内外から多くの来場者があり、大きな成果が得られました。

無理にイベントを統合するのではなく、お互いが緩やかな連携体制を組み、集客・PR費用等にかかるリスクを減らしていくこの取り組みは、今後のイベントのあり方に大きな一石を投じました。今後に向けて、よい事例になったと思います。

2) ミニ講座・ミニ講演会等の集合体としてのイベントづくり

文化課の所管事業の中に、「まなべDEわくわくアートフェスタ」という事業があります。まなべの館において、幼稚園から小学生対象に実施していますが、同時に5つのメニューを開催し、一例として、1限目はめがね作り、2限目は文楽、3限目は生け花、4限目は火おこしをするといったものになっています。参加者は300～400人参加しており、幼稚園児は親御さんと一緒に参加しています。

この例のように、小さい映画館の集合体であるシネマ・コンプレックスのように、同一会場で小さな講演会をまとめて実施することは可能ではないでしょうか。大きなテーマのもと、分科会方式を採用することもできますし、また逆に、歴史とITなど、意外な組み合わせを試みても面白いと考えます。

資料 No.12

平成28年度文化芸術体験プログラム
まなべDEわくわく!!
アートフェスタ 2014
7.20 Sun 9:30~15:00
*9:00~受付

参加者募集!!

まなべの館では、芸術、伝統芸能・生活文化、伝統工芸、歴史などいろいろな分野の体験ができる文化芸術体験プログラムを開催します。夏休みの宿題のヒントもいっぱい!!
夏で、聞いて、作って、発見して、まなべの館で1日楽しみましょう。今年も新しい体験メニューを用意しました。そして新たに、大人向けのワークショップも登場しました。
アートフェスタで、夏休み最初の日曜日をわくわく!!過ごしませんか?

当日のプログラム

| | |
|------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 9:00~ | 受付 |
| 9:30~10:00 | オープニング "KYOGEN" パフォーマンス 今回は大藏流 茂山忠三郎 社中の方による日本の伝統芸能 狂言/パフォーマンスでのオープニングです! |
| 10:00~ | 各ワークショップ体験開始 / 大人のワークショップ体験開始 子どもは、午前まで・午後1時、合計3つのプログラムを体験します。 (体験していたくプログラムについての詳細は後日郵送にてお知らせします) |
| 15:00頃 | 終了予定 |

* お昼に毎年恒例の「さばえ産とれたて夏野菜 まなべカレー汁」の試食

パルンアートもやるよ!

例えば、市民主役条例に「ふるさと学習の推進」ということも位置づけられており、「ふるさと学習の日」という日を設けて、ふるさとさばえの歴史・産業・文化などを紹介するというのもひとつの考え方です。

そうした観点から、上記ワークショップにおいて、

④「ふるさと学習の日」イベントの創出とその組み合わせについても、意見交換を行いました。

その結果、歴史に関する体験学習や、昔の生活体験、伝統的な食生活の見直しなど、それぞれの参加者から60にもものぼる数の提案が集まりました。これを見ても、多くの団体が連携することにより、特別なことは考えずとも自分たちのできることを持ち寄るだけで、魅力的な体験イベントが開催できると確信したところでした。

今後、「ふるさと学習の推進」を市民レベルで進めている市民主役条例推進委員会・さばえブランド部会等とも話し合いながら、具体的なイベント開催につなげていけたらと考えています。

3) イベントに関するアンケート

イベントの見直し・改革を進めるには、イベントのためのイベントにしないための検討を始めるための具体的な仕組みづくりが必要です。そのためには、基本的な考え方に述べたように、イベントの目的に再度目を向けて、「誰のため、何のためのイベントなのか」を再考してみることは不可欠です。

実際には、事業を担当している行政職員の方も、いろいろな悩みや考えを持っておられると思います。見直しのきっかけがあれば、進んでいく可能性があります。そのきっかけづくりとして、各事業担当課に、イベントに対する今後の方針や考え方を尋ねるアンケートを実施し、その結果を広く公開することを提案します。

<イベントに関するアンケート案>

- (1) 事業の目的
- (2) 特に今年度の目標、成果（何を狙っているか、どういう成果を期待しているか）
- (3) 上記を達成するための特徴的な取り組み

さらに、必ず参加者アンケートを実施し、そこに下記の項目を入れてもらいたいと考えます。

- (4) 参加者アンケートの統一項目
 - a なぜ参加したのか？（動員、主催団体の一員として、誘われて、自発的に・・・）
 - b 参加希望（また参加したい、参加したくない・・・）
 - c 満足度（数値評価）
 - d 上記目的が達成されているか（達成されている、達成されていない・・・）

その結果も集約します。

以上のような内容の<イベント・アンケート>を実施し、結果は市のHP等で公開します。アンケートに答えてもらうことで、担当者や関係者の方に、イベントに対する意識を再確認してもらう効果もあります。

例えば、イベント型の事業の場合、当該イベントでの集客数を事業の成果指標とすることが多く、そのことが担当課や関係者にいわゆる「動員」という手法に走らせる一因となっています。集客すべき市民にターゲットを絞り、新たな理解者を地道に開拓していくことに重きを置くべき場合も多いのではないかと思います。

啓発型のイベントの場合は、そのイベントを通じ、今年は何を目的とし、何を成果とするのかを明確に設定し、その上で事業内容を決定していく必要があるでしょう。

ゆくゆくはその内容は、次年度の予算査定時に必ず提出するような様式化を目指します。

さらに中長期的には、アンケートで得られたデータをもとに、官民共同で「イベント活性化ガイドライン」を設定し、イベントの見直し・活性化を図っていくことを提案します。



5 まとめ

今年で市制60周年を迎える鯖江市は、市民協働・市民主役のまちとして、全国でも注目される活気あふれるまちとなっています。市民のまちづくりへの意識が高さ、活発な市民活動、市民主役条例などを背景に、毎週のように多くのイベントが行われ、「鯖江は元気があっというね」と他の市町村の方々に言われるほど鯖江の活力の表現の場となっています。しかし、今あるイベントをただ継続し、次々と新しいものを企画していくだけで良いのでしょうか。イベントは一度始めたらなかなか止めることができません。そして新しいアイデアは次々と生まれてきます。今この時期に、イベントを見直す勇気が必要ではないでしょうか。

民間の事業では、目的や成果が明確でなくなったものは消えていくのが当たり前です。鯖江市のイベントもただ例年に倣うのではなく、事業の目的・成果をしっかりと検証し、「無駄なイベントをただ無くす」のではなく、「イベントを進化・発展させる」ためにどうしたら良いかという視点から連携・共催などを模索していく必要があると思います。また、企画から運営まで行政が実施するイベント体制だけでなく、市民の提案を市民が主役になって行うイベントづくりもこれからのまちづくりに必要不可欠だと思います。

すべては「活気あふれるまち鯖江」のために。今回、具体的な提案は控えさせていただきましたが、この提言書が行政や市民団体、市民が一体となった「三方良し」のイベントづくりの一助になれば幸いです。